

要旨

研究目的

経験豊富な助産所の助産師が実施する母乳育児支援の実態と特徴を明らかにする。

研究方法

質的記述的研究デザインを用いた。研究協力施設は関東近郊の助産所を便宜的に抽出した。研究協力者は研究協力施設に勤務する助産師とし、助産師としての勤務年数が 5 年以上あり、妊娠期から産褥期までの女性に対する母乳育児支援の経験がある者とした。研究協力の同意を得られた助産師に対して、①実際に妊娠期から産褥期までに実施している母乳育児支援、②その支援を行う時期や目的・ねらい、③その支援を受けた妊婦・母親の様子や変化、④母乳育児を継続するために重要だと考える母乳育児支援、の 4 項目について半構造的面接を行った。

得られたデータの逐語録を作成し、内容を分析しカテゴリー化した。抽出されたカテゴリー名や分類が妥当かどうか、該当領域の研究者と議論を重ねた。なお、本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号:15-060）を得てから行った。

研究結果

研究協力施設は助産所 3 施設であり、研究協力者は助産師 3 名であった。研究協力者の助産師としての勤務年数は 30 年前後であった。

分析の結果、助産所の助産師が実施する母乳育児支援に関して、4 つのコアカテゴリー、8 つのカテゴリー、16 つのサブカテゴリーが抽出された。コアカテゴリーは、【母子の個別性に寄り添う】【母親の持つ力を引き出す】【母親としての自覚を促す】【退院後の生活を支える】であった。

結論

助産所の助産師が実施する母乳育児支援として、【母子の個別性に寄り添う】【母親の持つ力を引き出す】【母親としての自覚を促す】【退院後の生活を支える】が抽出された。これらは、それぞれ関連し影響を及ぼし合う関係にあることが考えられた。また、助産所の助産師が実施する母乳育児支援とは、母乳のみに特化したものではなく、その根底には母親役割獲得過程を支える関わりがあると考えられた。